

レンコン



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
[3~4月] 前作の収穫 終了後 地力づくり	右記4種を同時に施肥して耕起し代掻きする 植付け迄に20日以上、なるべく長く日数をおく ※前作の茎葉残渣も土中で分解・醗酵させる もし前年に腐敗病が多かった場合にも、ラクトバチルス投入後、湛水日数が充分あれば、フザリウム、ピシウムは減らせるので、田に残渣を残す	●ラクトバチルス1.2kg ●堆肥1~2トン ●硫安60kg (または大豆粕等の有機肥料・複合肥料でN:12kg) ※実際の施肥量はN:20kgほど施されている場合が多いが、多肥で増収する訳でもない。 ※水田としては多肥だが、植付け時にEC:0.2程度になっていることが大事。微生物が活動していないと、有機肥料・緩効性肥料でも高ECになっている例がよくある。肥料濃度が高いと腐敗・褐斑も多く、濃度障害をおこすこともある。 ●畑の大将<青> 60kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将<赤>を施す。 ※レンコンの理想土壌pHは、乾燥状態の田で6.0~6.3。[pH (KCl)で5.5~6.0]これを目安にカルシウム量を増減する。(使用する資材は、どちらでもOK) 乾燥状態で低pHの田も、湛水後は還元状態になり、pH:6.0前後になるが、カルシウム(塩基)が不足していることには変りはない。 ※微生物を殺す石灰窒素は使わない事。
[6月上旬] 植付け後 40日頃 第1回・追肥	種ハスを植付け[4月]、常時湛水し、約40日後、茎葉維持のための追肥(状態により) ※立葉は地下茎の先の方向を向いて、一定間隔で並ぶ。向きや間隔がバラバラになっている場合は土に異常がある	●尿素10kgまたはマンゾク粒状20kg ※生育の状態によって、施用するか否か決める。 立葉の生長不足の原因がチッソ不足にある時のみ、尿素を追肥。田水のECが0.4以上の場合にはチッソ不足ではなく、土と根の障害である。マンゾク粒状20~40kgを施すか、根っ酵素液5~10ℓを水口から流す。このほうが強く生長を促進する。もし特に高チッソだったり、土から悪臭のあるガスが出ている場合はラクトバチルス600gを。チッソ過多の場合は、何も追肥しないか、田畑の大将<赤> 20kgを施す。
[7月上旬] 第2回・追肥	芽回しの後、(早生なら開花始め頃)レンコンの形成・肥大のための追肥(必須) ※レンコンの追肥はアゼから散布し、葉に乗らないようにする。田に入って芽や地下茎を踏まないように注意	●尿素10kg (N:5kg) ●田畑の大将<赤> 20~40kg (畑の大将<青>でもよい) ●ラクトバチルス 600g ※根茎部に養分を転流させ、レンコン肥大のもとを作るためには、チッソと同時にカルシウムを追肥する。このカルシウム追肥は、レンコンが揃って丸く肥大・充実する。さらに傷・曲がり少なく、弾力もあり固くならず、美味しくなる決め手となる。(特に夏季に日照不足の場合はカルシウムを多く施す。) ※夏~秋に微生物も疲労する。また9月以降、収穫前のカラ刈りで落ちる茎葉も分解させる必要があり、ここでラクトバチルスを補充する。

※追肥は、最も浸透性のよい尿素を推奨。カルテック農法で10kg程度なら、ECはあまり上がらない。